



2020年度 エプソン情報科学専門学校 実行計画 / 最終実績自己評価

学校長

印鑑省略

項目	【学校創立の原点】 設立趣意書より抜粋 エプソン情報科学専門学校が全人的教育により、高度情報化社会をリードする中堅技術者の育成に傾注できるように努力していく覚悟である。 設置趣意書より抜粋 また、単に、技術的に優れた人材の育成だけでなく、教養科目の時間をできるだけ多くとり、心と技術の調和のとれた、全人的教育を目標とする。	教育理念とは 三心：通いあう心、信じあう心、ひたむきな心 三共：共鳴、共感、共働（協働）の感性 三学：自学、究学、徹学の態度 教育方針とは 1. 通いあう心、信じあう心、ひたむきな心の育成 1. 共鳴、共感、共働（協働）の感性の育成 1. 自学、究学、徹学の態度の育成	【長期ビジョン】 社会人基礎力と専門性を有し、社会になくてはならない人材を育成し続ける
	①学校の教育理念・目標		【中期基本方針（2018～2020）】 1. セイコーエプソンと密接に連携して、最新の実務知識、技術、技能を身につけられる実践的な教育を目指す。 2. 生き残りをかけた再編を、確かな実績によって足場固めとし、経営の自立、好転を目指す。

分担	学校評価・項目	No.	推進項目	到達目標（期待される成果）	実績および最終自己評価	
共通	④学修成果	1	退学者の削減	目標：昨年実績以下 チャレンジ目標：退学者ゼロ	昨年度2名に対して、現時点で10名。退学理由は、学力不足からの進路変更、休学者の退学。	×
	⑧財務	2	経費削減・ムダの排除	予算目標の達成	人件費および経費ともに予算内で目標達成の見込み。	○
	②学校運営	3	「職業実践専門課程」の定着化	さらなる定着化の実施。	学校ホームページへ最新情報を定期更新。さらに長野県は10月から、より一層の周知のため県内認定学科一覧表を公開	○
	②学校運営	4	学校評価の向上	前年度評価点以上を目指す	満点4.0ポイントに対して、中間評価では3.4ポイントと昨年と同ポイント。概ね、適切に対応できている	○
	②学校運営⑥教育環境 ⑨法令等の遵守	5	適法対応、安全衛生管理、学習環境含めた環境活動の強化	昨年からの改善をはかる。問題を発生させない。	未曾有の新型コロナウイルス感染症拡大に対して、入学式、授業等の運営日程の即断、3密対策のためのレイアウト変更や運用変更、陽性者発生リスクへのオンライン授業の検討・準備、募集活動のオンライン対応検討・実施と、正に激動の1年を乗り切った。	◎
教務部	③教育活動	1	「5年後10年後に会社になくてはならない人材」を目指した育成	追試験件数前年度(1.2件/人)以下、A評定率前年度以上 グループワークを充実し目標達成に役立つ計画力と協調性を身に付けさせる 情報システム科にロジカルシンキングの授業を新設し物事を論理的に伝える力を身に付けさせる	追試験件数：昨年と変わらず(昨年1.2件/人⇒今年1.2件/人)、A評定率：昨年から微減(昨年52%⇒今年47%)という結果であった。数学の基礎に対する補講の実施、理解度が低い学生へのフォロー、ミニテストの実施により学習習慣を身に付けるように指導を継続。 コロナ禍においてこれまで通りのグループワークの実施は難しい状況であったが、チームビルディング講座による講義と演習の実施(ビジネス科)、通常授業に発表と意見交換の場を設定するなど可能な範囲で他者と連携する機会を作った。グループワークを取り入れた授業数は昨年度と同様に7科目(S2,E2,B3)。ロジカルシンキングの授業では事実をベースに意見を示すことの価値を伝え、論理的に考える訓練を実施した。	△ ○
		2	教える方の向上(どうやって身に付けさせるか)	独自学習、通信教育、セミナー参加、資格取得等に1つ以上取り組む 非常勤講師および自身の授業評価(授業評価アンケートや面談)による実践状況把握と改善 常勤/非常勤、学科の枠を超えてお互いの授業を参観して授業方法に改善を加える 授業評価アンケートによる学生満足度を向上させる	指導力向上に向けて、教員全員がアンガーマネジメント(此方方)セミナーを受講(予定)。そのほか、資格試験合格(2件)、コロナ禍の影響でセミナー参加は自粛。 講師二人体制授業の実施により学生へのフォローの充実と自身の授業運営の参考にすることができた。授業評価アンケートの結果を踏まえて来期体制に生かす。	○ ○
	③教育活動					
(学務)	⑤学生支援	1	学科、学年を越えて交流し、共に協力し合う人間性の教育と達成感の共有	スポーツ祭、三心祭の準備から実施に至るまで全学生が満足し、達成感を得られる 校則の重大違反なし 授業以外のイベントにおける遅刻・違反欠席者を減らす(1回平均1人以下)	コロナ禍において、スポーツ祭は残念ながら中止となったが、三心祭については学生会役員がアイデアを出し合って午前の部は諏訪湖畔でのウォーキングラリーを企画・実行できた。午後の部はスポーツ祭の予算も有効に使ってソーシャルディスタンスを確保しながらビンゴ大会を実施し、主催者も参加者も楽しめた。 頭髮・服装等においても軽い注意で済む程度の内容で特に問題となることはなかった。各イベントの欠席者は平均1人以下であった。	◎ ◎
		2	学生の資格合格率の向上	直近2年間の平均合格率(68%)以上の合格率を達成する	合格率は、昨年度 72% ⇒ 今年度 77%を達成	○
	④学修成果			10P以上の特別表彰を15名以上出す 特進クラスは全員が卒業までに10P以上取得させる	10P以上は15名(昨年は20名) 内訳(40P以上1名、30P以上3名、20P以上4名、10P以上7名) 特進クラス5名は全員10P以上	◎
就職指導部	④学修成果 ⑤学生支援	1	就職内定率の確保とエプソングループをはじめとした専門性を生かせる企業・個人の能力を生かせる企業への就職支援	就職内定率95%以上を確保する 卒業生ヒアリングに加え、内定を得た在校生の就活体験を共有できるイベントの実施(就職活動のためのアドバイス、実態業務と現カリキュラムの比較)	コロナ禍で対面接触ができない中、大健闘の就職内定率100%を達成した。(5年ぶり) 卒業生ヒアリングについてはコロナで往來が規制される中、1社(日本ナレッジ様)より卒業生へのヒアリングと企業で役立つカリキュラムについてご意見をいただいた。在校生に向けては当面のオンライン就活に向けてのマイナビによる対策講座を就活研修にて実施。	◎
入試セン	⑦学生の受け入れ状況	1	募集者数の拡大	募集者数の向上 イベント参加者数の向上およびガイダンス参加者数の向上	3月前半(第6期)の入試まで59名と昨年比9%減。3月後半入試で昨年を上回れるか、予断を許さない。 新型コロナウイルス感染症の影響で、高校への説明会や会場ガイダンスへの参加者が昨年より25%減。ただ3年生のオープンキャンパス等に参加者数はのべ人数は昨年比13%減でとどまった。	△ △
		1	経費削減	昨年度以上	予算を下回る見込みであり、さらに昨年度実績をも下回る見込み。	○
事務局	⑧財務	2	業務の効率化	昨年度以上	業務の効率化を目指したが、未曾有のパンデミックへの対応で、この1年は振り回された。定期棚卸の実施を効率よく行うためのラベル貼付の改善のみ実施。	△